



最終回

赤浜の海鳥 カラスの話

車で赤浜の海洋研に向かう途中、海際の道路の真ん中に居座るカラスをしばしば目にします。近づくと車に慌てるようすも無く、カラスはくわえていた貝を道に置き、ピョンピョンと道端に移動してから、期待のこもった熱い視線を送ってきます。奴の狙いを知っている意地悪な私は、ひよいと貝殻を避けてやり過ごす。バックミラーで確認すると、カラスは恨めしそうにこちらをにらみつけています。そう、カラスは人間が運転する車に貝殻を割らせて、中の肉を食べようとしているのです。

カラスの頭の良さを示す逸話は数多くありますが、昨年あった出来事を紹介しましょう。現在赤浜の海洋研は建物の3階だけを整備

して使っており、1階と2階は瓦礫を撤去しただけで物置場になっていました。2015年の4月ごろ、無人の1階と2階部分にカラスが侵入して配管の断熱剤を突つつかめ、辺りに断熱剤や糞が散らばるようになってしまいました。春から初夏にかけての季節はカラスの繁殖期に相当します。巣を作るための材料として、どうやら断熱剤がカラスのお気に召してしまつたようなのです。以前、1階に置いたゴミ箱の中身をカラスが漁るという問題が生じたときは、頑丈なゴミ箱を用意することで何とか対応出来ました。しかし、今回カラスが突つつかのは、津波のせいでむき出しとなった配管の断熱剤です。こんな場合は、いったいどうしたらよいのでしょうか。

困り果てた挙げ句、カラスの専門家である宇都宮大学の竹田努先生に対策を相談してみました。先生曰く、「犯人としてはハシボトガラスとハシボトガラスが考えられますが、ハシボトは屋根があると怖がるので、おそらくハシボト

でしょう。カラスが巣を作る場合、最初に骨組みになる長めの棒を組み合わせ、その後だんだん細かい枝や木の葉を敷きつめて、最後に柔らかいコケなどを敷きます。断熱剤を集めているということは、巣作りの最終段階に入っているのでしょうか。建物の1階2階は人の目が少ないため、カラスにとつて侵入しやすい場所になっていきます。冗談だと思われるかもしれませんが『カラス侵入禁止』という看板を出してみればどうでしょう」とのことでした。



東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター1階に掲げられた看板

私たちも「そんなバカな」と思いました。「東大がそんな馬鹿馬鹿しい対応をして世間に笑われないうか」とも思いました。しかし、他に妙案も浮かばなかったため、仕方なくそのような看板を出してみたのです。すると、効果てきめん。その後は建物にカラス

は入ってこなくなりました。夏に視察に訪れた東京大学総長もその看板を見て、「そうですか、カラスは文字が読めますか」とおもしろがったとか。

その事を竹田先生に報告すると、「東大の人たちはマジメなので、そんな張り紙があると足を止めてしばらく観察してしまうのではないかと思って、提案してみました」とのことでした。悔しいことに、私たちの行動もまた先生の読み通りだった模様です。もちろん、カラスがいくら賢いからといって、漢字交じりの文字が読めるはずありません。看板を見た人間の反応を見て、自分たちに対して何らかの悪巧みがなされているのではないかと深読みした結果、建物に入らなくなったというのが真相だったみたいです。

今年もまたカラスの繁殖期がやってきます。再び「カラス侵入禁止」の看板掲げる予定です。大槌町の皆さん、是非ともそれを見に来てください。そして、付近を飛ぶカラスを指さして笑ってやって下さい。

東京大学大気海洋研究所
海洋生命科学部門教授 佐藤 克文

2014年8月5日号からお楽しみいただいた「おおつち海の勉強室」の連載は今号で終了します。

佐藤 克文

1967年宮城県生まれ。専門は動物行動生態学。著書に「ペンギンもクジラも秒速2メートルで泳ぐ」(第24回講談社科学出版賞受賞)、「巨大翼竜は飛べたのか」、「サボリ上手な動物たち」、「野生動物は何を見ているのか」がある。2004年から震災まで釜石市鶴住居町在住。

